



大政
君得也

閏四月朔

同十八日也

木
新得為秀
意名也

戊辰日記

養浩堂藏書

戊申二月音問了



早稲田大学図書館
文書 27
A 20

閏四月朔日

晚来三條輔相公諸大夫森孝大和守入集
身之兼初初改續以伴道頓據業
田屋業内改藝妓酒者七段付後時
物談推移以交者七第七要白今夕
是非之木戶進中口面會止討會頃序
七お湯是板切迫上溪論方七世際討
會一刻七體方有進七あ所來り木戸七
同志日倫七浮七同道改夜中少身第八我
七東倫七進七青七中七我米海七會

津野之謀海之怪哉一概之述之計
會中込ま少お創之末戸君之神通討
伐之持論之今夕願屋之都令之國
却之勢方阻隔之生之切角之面
命之動能者之乃其加之未之君之
長端表之出張之由身目之東方事作廢
涉有之如之多延引之波之春之
之安少年血氣勃之例之上折流之國循
師之激言者之抄十字次散會
一萬古唐金着者之師都京都垣町古登

教之會計方飛木着奔着坂京師之書批
坊系持之之安

休中勇猛之年中之重之也
四月十日之取限之約我勢之仙基人教
之教了字且先勝之白共之可討之
九條路撫傳之更之被作之計之
今之戦之乃指之吹之
業倉之之内之又之六之満之討會
兵之作出之其之京都表之律出
也成之得之切迫中益切迫之容易事行就

桓武天皇の御東真子小島親元平廣海
面談し事伴あり 龍之口上之木野左之卿
東方長崎縣北之成原威益張大宮子此
以本畫初其思を會情を以て薩長長
之の肉まを辰久の飲まき 淫慾徳無き中
其れ今も在り會者滿る激迫之推し出ま其
其むろく薩長長を櫻満之如く成り會
其のらまを不淨依り會を倒り薩長長を倒
る飲何れも大に好まき石能く知るべきなり又
薩長長會者中一二年に戦軍を以て倒

より之那中一存一七武門之常が此九七之
高事申すもく乃其に其現片外患を迫り此
衆慮^廣觀^廣觀^廣願^廣之際之常り内地統一并に到
りて此皇國御衆慮之物と多くを儀あり其子
其玉大之福根あり 佛之り 仍る助會者之儀を
之んと飲も今も滿り大急を押出まき其を
助之為其成まき之暇中一已之助會者名義
其まきしと助會者之滿り即ち活名を成り威
迫七滅之まき天下を其如其の勢を削り其
外患を御置き折角を其の如く借古に

王業も水の泡と成るに、

ふたつと彼地此地を動産を弄りて
あは儀ありけりは際合ふ處に
慎む政果好法列藩に
如く者くは

外天凱颯を恃ふ可測 王政得古を基業
十分一二と了きけり内地を指罪を討つ
細根を鋤盡し得るも
況や鋤き先とせし
正身私麻の物あり片り、

建保護しと為忠一邪も正し

内地結集高民樂土王政綱幕り日張り

外患、颯颯 カカレン 萬國並立、盛蹟、

在方、片り於延、一大急務あり、

羽列藩より編むと説得し自ら是非を辨る

王化、御吹を振務を盡力因旗あり

中身、會藩を置し、一先、集羽列藩

を在任せしむる道とす、深慮遠算と取

盡き、非常の大活法を以て寛仁の外に

沙汰を在任し、の趣あり、我未澤藩り

唐澤う勢くや事流泉候なり命満と
皆らしむれり疑とあり必也唐澤
決断を朝議より行ふ事未だ決らぬ
唐澤世に流洩せし極白満三要路に
人との盡力より事成るに何れぞ
か事あり 主上も親征中なり最一五六
坂と唐澤も好向あり唐澤も早出せ
十書取らしむる事あり内誤事か辨去
り事

唐澤印監三浦法光も水誤り唐澤少島記

之より太政官の建書も改り方あり元
極の事候に類末の祝分自分も唐澤も早出せ
唐澤も改書ありし事

大坂行幸中唐澤下坂より仙居より御來りし
唐澤も改書ありし事

唐澤も改書ありし事 天王寺唐澤も改書ありし事
唐澤も改書ありし事 舟中唐澤も改書ありし事
唐澤も改書ありし事

唐澤

舟牛天未飲大坂八軒屋子着身

今日大坂城之於也

皇帝諸藩大砲調練 天覽多

保德藩中島印之助管原就吉之坊之也

家先大内主以後藤庄九島片下坊也

後藤之面有

土州藩權林龜吉之身之分明土州、蒸氣船

之坊之出兵之手配之政之仍白同藩士中村與二

兵衛後改觀中村植助後改幹堀江剛吉坂屋子會

飲皆慷慨有志人之我、朱澤、婦、

幾多、難厄之身、一、三、歌、悲歌哀吟惜

別之快也、鯨飲達明

土州後改觀原唯八後改觀胆前江藩新平后

日軍監拜命之、關東者及足之由妙之面有

六百晴

皇帝明日而後替還幸、被伴出三月廿、京都

申茲聲大坂之報、日數四、身、

手前吸原系之、法之、後藤正之、魚木

之、新中身、岩原、伴、魚木、身、小國、原之、房

印、是、對、的、藤、效、之、心、快、解、未、也、管、原、也

天王孝卷印出湯方高呼使身仙學非常
世活之成身返礼方仙滿名其人案内
改酒者差中封的天字十国旋事
仙生之別也湯多塚所印之着す

小島龍之介 柿著儲平日道外出乃改改
少的物印

此夜印監三浦河花真士遠山翠 山崎記部
有書
改稿 柿崎儲平之修夜會評

去七日真士遠山翠之令會津滿原分
と奥州一二之流瀉之書也但し印付物建

言書太以官進達之及候要右達言書
前以由之廣澤と布与之示し候要右文
中、伏罪ノ心と興と云々の文字と剛、物建
二字を取換へるは白早進進達之乃と極
都合直敷也其矯々忠告有之、其趣意伏罪
可也改之者意を以言建言は云々 他
於進之詢層也其任之成節吃亦伏罪
其改之得し其命候時之到、大之進或意を束
はまへしドウテ厚身津、伏罪ももろくも
激怒と抑へ其之為吹たる改也友手折也

物正二字眼入お多候深か寺と云ふ事満
り成様盡方波方此建言書進り有に
つ、法福も七打債ヶ此意と以建白也
杯書方ありし唱へる和音の無き先し
勿論書き始の満願有志者皆以密に周旋
を以て御不安に云ふは、廣河彦彦
姫駕の忠告ありし前後の口氣と以お察候
得る會の満願を以て、長州同祀を以て、
お願也如何に涉切に成り
廣河彦興り有士志山家建言を以て、

篤に書海に因り東抄建言を以て、お察候、太政官
進達御、お世々一刻も早急未澤の御城に
上會は満願極に、お願を盡し、お要あり
仍お世々早急に、お願を盡し、お要あり
京都滞り、お願を盡し、お要あり、建言
書進達の後、今満願を以て、お願を盡し、
御請に、お願を盡し、お願を盡し、
兵に上諭會を以て、お願を盡し、
願を盡し、お願を盡し、
願を盡し、お願を盡し、
願を盡し、お願を盡し、

自任力無他他人割手時せらば一決安ん深
くお戒め從事多し友會評お濟し先口
第一着手朝廷忠告の内名を報告會津
藩遠河らぬの故に早追歸國の議
あり

十日

發見之史に菅原龍吉見立入東面會奥相也
居る内件湯の碓判
午後未の半刻京都及足小島柳崎有人三條
橋元とお名を報新徴組追藤勇上総流山

を打取テ三條橋南、河原、梶首セテ人見物
人夥數群集セリ

以上閏四月朔日より同日十日の間の記事

抄を此時

朝廷御切迫、事柄信越諸侯より幕府へ脱
走、兵古屋作左衛門會津水戸の諸浪人信州路
より上洛するに注進お續て有之、一時大騷動あり
大坂御親征を成し還幸し相成り、木戸參與、肥前
浦上即蘇我事件、北多長崎、西下尾張老侯尾
濃防衛、為り御暇出来歸國相成り家老田宮如

雲等伏水擊衛ノ尾六ノ率ヒテ一時盡リ歸國
レ候棟子ヲ朝廷ニ於テモ自然會滿御處置ノ寛
大論相慶シ奥羽諸藩ノ説諭御委任ノ議論
モ相起リ即チ廣澤奏身等ノ御慮モ有リ候
ト想像セシ然レテ還幸後越後ノ浮浪モ鎮靜
イタシ候為ノミモ有リ欽因四月十九日京都ニ於テ
上杉家ニ密勅ノ下リ候節勅書ノ全ク辨兵論
會ノ明文無ク速ニ鎮定ノ奏有リ候ハ於成功
厚ク恩賞可有ク云々ノ御沙汰ナリ其ノ其頃ニ信
別浪人モ既ニ鎮定セルヲ以テ廟議俄ニ變セシムルベシ

大津より石坊より若船湖上月光如玉草津
より架駕高宮天明

十一日曇雨

高宮より朝登鳥井本より北陸道入り長濱
より河内日暮賤岳より亂山疊嶂此邊より
雨ニ成夜半板鳥より越前領方ノ関門より朽木
嶮岨奥ニ去陸儀より服本天明

十二日晴

府中朝食越前福井城より過リ此ノ又暖陰舟場
より飼四村裁秋細呂木越前賀加ノ鬼ノ堀切

的與信多事、未得拔、一呼以官軍、何地
上進、未、而、以、方、與、爲、指、一、以、月、日
光、先、年、昌、平、之、會、飲、中、唐、海、之、小、川、德、亦
平、長、進、多、未、得、爲、停、與、誤、判、以、小、川、苦、白
厚、其、仍、水、一、舉、築、爲、厚、之、錦、旗、之、友
破、一、如、此、此、之、征、討、之、命、者、矣、之、悲、憤
不、堪、何、胆、收、滿、抄、之、十、分、爲、時、之、本、情、也
卷、之、我、獨、重、之、汗、如、之、如、何、讓、滿、抄、之、以、下、
守、之、身、矣、獨、大、一、戒、之、老、例、之、賊、之、降、之、決、心
之、出、矣、之、一、獨、之、血、因、伏、水、之、驚、也、也

公備あらん、此、之、陣、之、開、戦、而、之、大、攻、敗、也
一、百、藏、之、所、を、於、る、亦、兵、之、不、敵、也、如、し、果
白、石、教、之、心、付、る、能、州、政、事、也、以、是、之、對、之、誰
情、罪、之、河、を、く、し、然、乎、事、不、出、乎、此、也、矣、其、亦、
何、し、却、る、長、城、之、敵、一、隣、境、之、海、浪、之、出、也
切、也、之、爲、る、流、石、也、以、以、列、藩、是、我、討、伐、之、決
也、之、官、軍、海、陸、之、大、軍、加、越、之、地、也、陣
之、未、也、之、踏、し、之、矣、之、海、之、深、謹、慎、也、以、而
方、向、之、取、り、ま、す、一、他、不、知、也、矣、小、川、苦、白、頭、
曰、此、次、守、之、身、也、獨、之、木、清、片、之、也、君、臣、得

身与白虎说漏所しと今古福と了白初与也
趣意と了解也我亦年以收決白深是也志
初と皆と丹と收と也と小川と也と也と木
滑片山之層時之流と也知と也と未得と也
情と也と也と相谷と天明

十七日晴

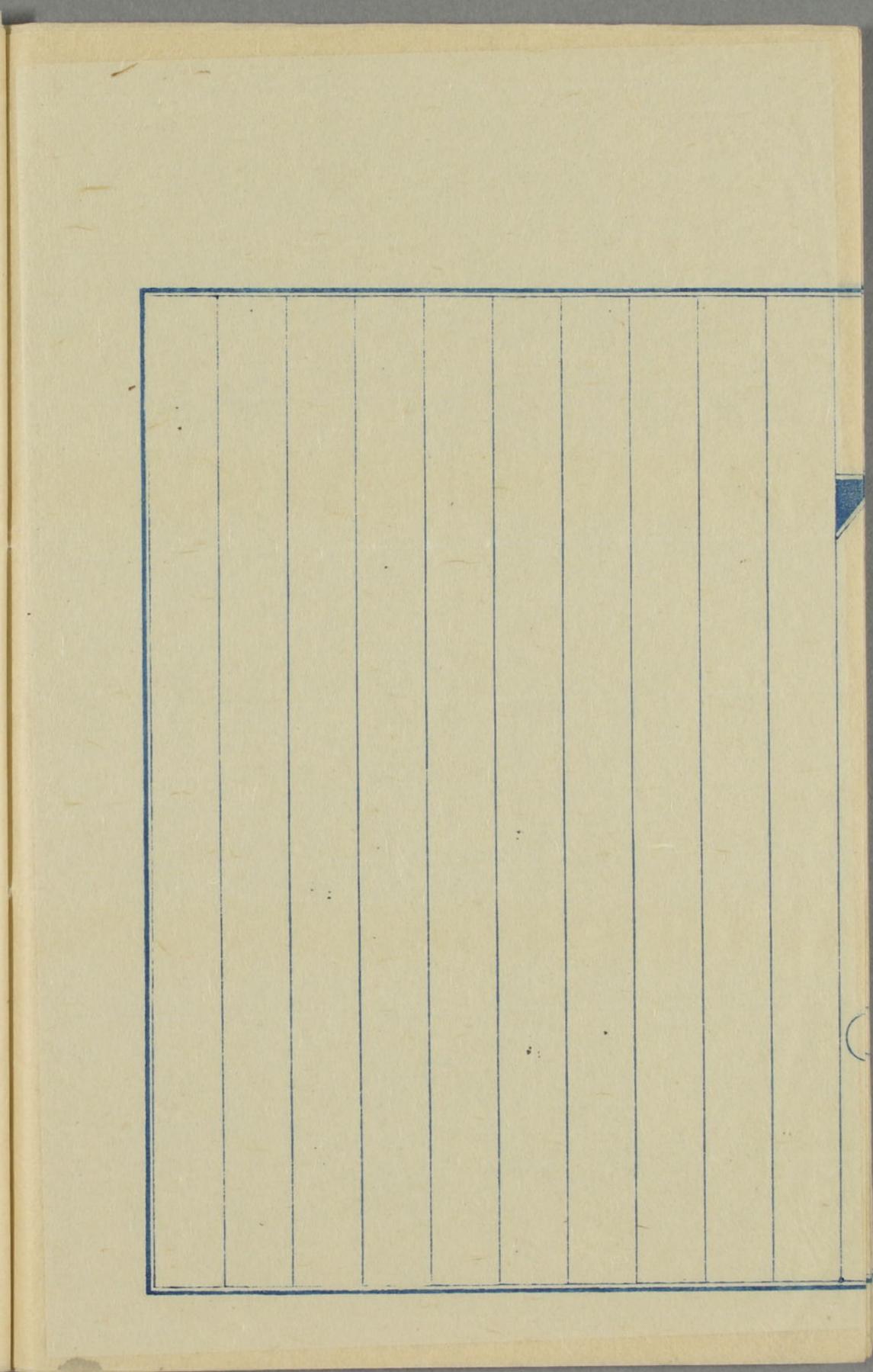
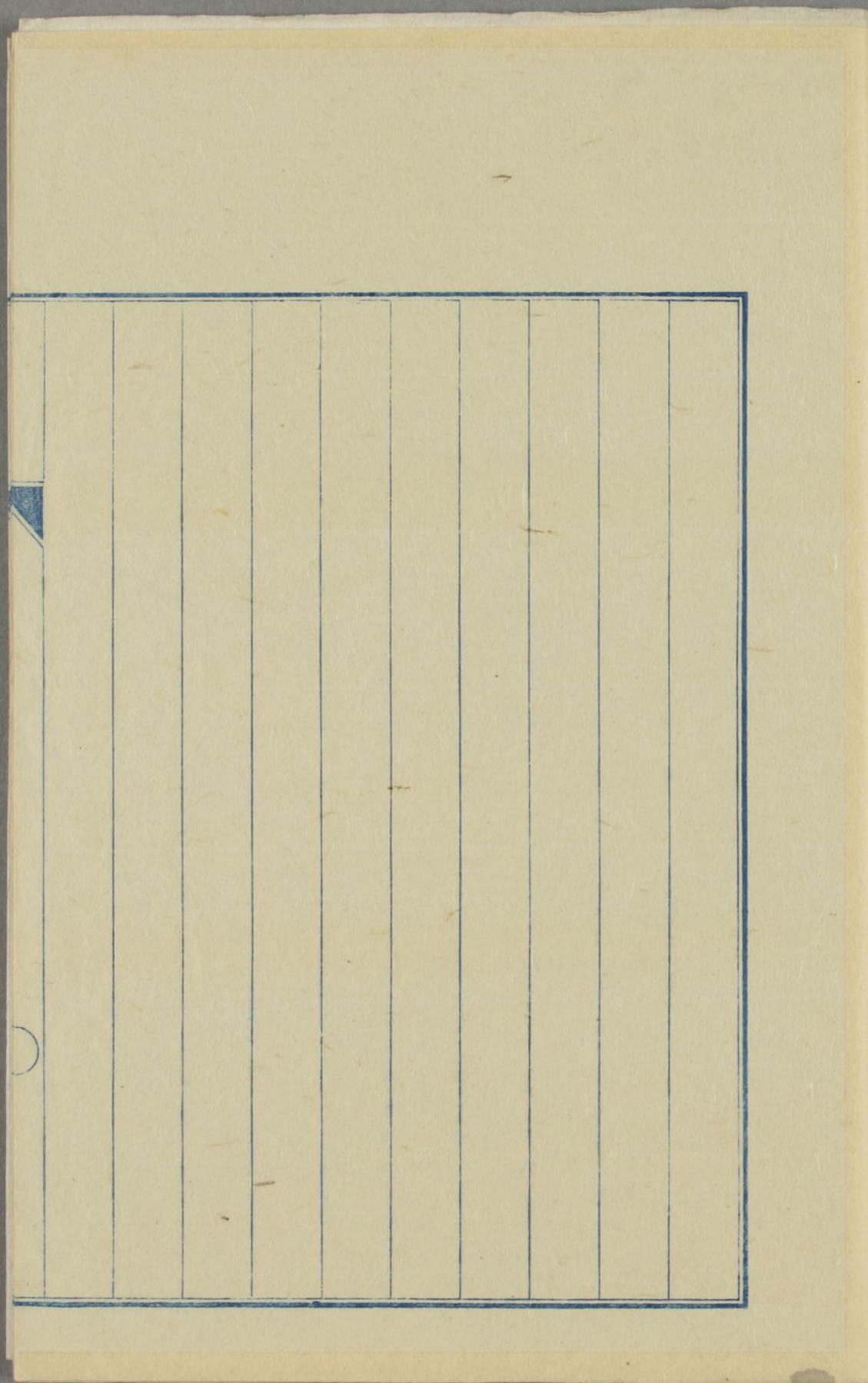
出雲崎より飯後弥彦山下に午餐せり
秋直盛なり未塚岡に居るも休
秋の晴新深と看す宮澤人津戸某未活
種と誤あり又秋内の人と云ふ早也と未得

使者行送

十七日晴 夜雨

木寄天明新と名田と石掛と次第濱より中條
黒河と道と園賦と到と在偏と人との早追と
米沢と名と爲と道と官と清川と口と道と子と際致
兵家易と之とと勢と也と也と誠と不可思と也
関より玉川直と陸所と薄暮玉川と看と也
地夜時出多及而、郵と天明夜雨と也
儀也

十八日雨



以下全紙
白紙

